

○ロタウイルス感染症の特徴
乳幼児の冬の急性下痢症の最も主要な原因がロタウイルスによる感染症です。
秋から年末にかけてはノロウイルスが、1月～4月にかけてはロタウイルスが主に流行します。生後6ヶ月から2歳の乳幼児に多くみられ、5歳までにほとんどの小児が経験します。

米のとぎ汁のような白色の下痢便が特徴で、そのため白痢あるいは仮性小児コレラとも言われていました。
主な症状は嘔吐と下痢ですが、ノロウイルスよりも発熱を伴う場合が多く、重症度が高いとされています。
通常1歳を中心に流行がみられますが、保育所、幼稚園、小学校などの小児や、病院、老人ホーム、福祉施設などの成人でも集団発生がみられることがあります。

○感染経路
患者の便1g中には10～100億個ものウイルスが排出されます。ロタウイルスは感染力が非常に強く、10個以下のウイルスで感染が起こります。このため、患者の便中のウイルスがなんらかの形でほかの人の口に入って感染します。
ウイルスは環境中でも安定なので、汚染された水や食物を介して、あるいは汚染された物の表面（ドアノブ、手すり等）を触った手などから口に入り感染します。

○症状
嘔吐、下痢、発熱が主な症状です。
潜伏期間は約2日で、激しい嘔吐（1日5～6回）、激しい下痢が特徴ですが3～8日程度で治まります。発熱は半日～1日で終わる場合が多く、2日を超える例はあまりありません。
激しい嘔吐や下痢により急激に水分を失いますので、特に乳幼児では脱水症状に気をつける必要があります。

ロタウイルスのように局所感染を起こし潜伏期間が短い感染症では、感染後の免疫が不完全かあるいは免疫が成立しても持続しない（1年以内）ので、たびたび再感染を起こします。
一般に、年長児や成人では感染しても発症しない（不顕性感染）場合が多いようです。

○治療方法
現在、このウイルスに効果のある抗ウイルス剤はありません。
脱水、症を防ぐため、市販のイオン飲料等で水分を補給する必要があります。少しずつ何度も飲ませてあげましょう。飲んでも吐いてしまう場合は、早めに医療機関を受診してください。
下痢止め薬は、病気の回復を遅らせることがあるので使用しません。

○予防方法
日頃からの予防方法としては、食事前やトイレの後などにおいて、石鹸を使ってしっかりと手を洗うことが大切です。

○二次感染を防ぐために
患者の便や嘔吐物には大量のウイルスが含まれていますので、その処理には十分注意する必要があります。また、下痢の症状がなくなった後も、患者の便にはしばらくウイルスの排出が続くと考えられますので、症状が治まっても安心はできません。

汚物を処理する際には使い捨ての手袋を使用し、用便後や調理前の手洗いを徹底しましょう。
殺菌には熱湯あるいは0.05～0.1%の次亜塩素酸ナトリウムを使用します。アルコールや逆性石鹼にはあまり殺菌効果はありません。調理器具、おもちゃ、衣類、タオル等は熱湯（85℃以上）で1分以上の加熱が有効です。
市販の塩素系漂白剤（通常は5～10%次亜塩素酸ナトリウム）なら50倍～100倍に薄めて使用します（例えば、原液10ミリリットルを1リットルの水で薄める）。

検査項目	:	ロタウイルス抗原（便）
検体量	:	糞便1g
保険点数	:	65点
検査判断料	:	免疫学的検査
所要日数	:	2～4日
基準値	:	（－）

3 当社における細胞診ベセスダシステム報告対応

昨年11月に行われました「日衛協 臨床検査普及月間大会 学術研究発表会」におきまして弊社検査技師が発表を行いましたので紹介させていただきます。

演題
当社における細胞診ベセスダシステム報告対応

【目的】
今般、子宮頸部細胞診において従来の日母class分類にかわり、ベセスダシステムの導入・移行が図られている。当社におけるベセスダ導入対応の一連を検証し、運用に至るまでを報告する。

詳しくは、下記URL をご参照下さい。
<http://www.keihin.gr.jp/image/kml-pdf/besesuda.pdf>

4 KMLインフォメーション 11月～1月分のお知らせ

前回メールニュースを配信しました後から現在までに発行されました「KMLインフォメーション」についてお知らせ致します。

各インフォメーションにつきましては、医院様へ随時お届けしておりますが、ご確認などに活用して頂ければ幸いです。

2009年12月 7日 検査内容変更及び検査中止項目のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2009-1207.pdf>

2009年12月14日 年末年始業務のご案内
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2009-1215.pdf>

2009年12月15日 越年不可能項目 平成21年年内最終受付のご案内
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2009-1214.pdf>

■ □ = = = = =



最後までお読み頂きまして有り難う御座いました。

編集／発行 <http://www.kml-net.co.jp/>
株式会社 京浜予防医学研究所
〒211-0042 神奈川県川崎市中原区下新城1-13-15

= = = = = □ ■